

令和 2 年度事業計画書

(令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで)

当財団は、平成 27 年度から令和元年度まで、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館の管理運営に係る指定管理者の指定を受け、数多くの優れた舞台芸術作品の提供や、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を継続的に実施してきた。さらに、地域の核としての賑わいを創出する事業の実施や経営に関する改革にも取り組んできた。

新たな指定管理期間の始まりである令和 2 年度においては、これまで培ってきた実績と経験を最大限に活用しながら、県内における芸術文化の一層の振興と、真に豊かさゆとりを実感できる県民生活の実現のため、引き続き次の目標を掲げ事業に取り組んでいくこととする。

(1) 埼玉から国内外に向けた芸術文化の創造と発信

看板シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」や高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」、若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」など、公共劇場ならではの埼玉独自の取組を行い、埼玉から国内外に向けて新たな芸術文化の創造、発信を行う。

(2) 県立文化施設独自の事業展開

彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において、芸術性の高い特色ある事業を行うとともに、全県的な事業の展開に取り組む。また、作品の制作過程を通じて若手人材を育成するなど、県立文化施設が果たすべき役割に積極的に取り組む。

さらに、「ゴールド・アーツ・クラブ」の公演や海外、国内の招聘プログラム等を実施する『世界ゴールド祭 2020』など、高齢者に舞台芸術活動を通じた社会参加の機会を提供するなど、社会貢献事業を実施する。

(3) 地域の核として賑わいの創出

彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館が持つそれぞれのブランド力を活用しつつ、地域の特性に合ったプログラムを行うとともに、さいたま市や地域の事業体、地域の方々と連携した取組を行うことで、地域の核として賑わいを創出する。

1 舞台芸術作品の提供等に関する事業

(1) 自主企画公演等及び国内外との交流 (56 事業)

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供していく。

また、埼玉会館では、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施する。

ア 彩の国さいたま芸術劇場 (50 事業)

(ア) 演劇部門

若手演出家の活用や子どもたちの鑑賞機会の確保に努めるとともに、蜷川レガシーを継承しつつ世界的芸術の発信に取り組む。

次代を担う演劇人として注目を集める藤田貴大による新作児童劇『かがみまど とびら』を5月の連休に合わせて上演する。子どもから大人まで幅広い層に向けた鑑賞機会を提供する。

「松竹大歌舞伎」は、(公財)熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで実施し、県北地域に伝統芸能鑑賞の機会を提供する。

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、同シリーズ2代目芸術監督吉田鋼太郎のもと、6月に第36弾として歴史劇『ジョン王』(演出・出演：吉田鋼太郎、主演：小栗旬)を上演する。

7月には沖縄戦に動員された少女たちに想を得て描かれた、マームとジプシーの代表作『cocoon』(原作：今日マチ子、作・演出：藤田貴大)を上演する。戦後75年の節目に先の戦争に改めて目を向け、演劇を通じて、とりわけ若い世代に戦争の悲惨さを伝えて行く。

高齢者劇団の先進事例として注目を集めるさいたまゴールド・シアターは、8月には現代的なアプローチで能と現代演劇との融合を図る演出家・岡本章の構成・演出による『現代能』を上演する。『世界ゴールド祭2020』の開催期間に合わせて実施し、高齢者演劇集団による日本の伝統芸能と現代劇を融合した作品をオリンピックイヤーに発信する。また2月には、高齢者の安楽死問題に材を取り、なお今日的な作品である第4回公演『聖地』を作者・松井周自身の手による演出で上演する。「高齢者のために書き下ろされた新作戯曲」というさいたまゴールド・シアターにとっての新たな試みを行うことにより、芸術文化の新たな可能性を提示する。

事業名	実施予定時期	会場
新作児童劇『かがみまど とびら』	5月	小ホール
レオの小さなトランク	5月	大ホール
松竹大歌舞伎	5月	熊谷文化創造館さくらめいと
彩の国シェイクスピア・シリーズ第36弾『ジョン王』	6月	大ホール

マームとジプシー『cocoon』【共催】	7月	小ホール
さいたまゴールド・シアター『現代能』	8月	小ホール
さいたまゴールド・シアター『聖地』	2月	小ホール

(イ) 舞踊部門

国内外でめざましく活躍するアーティストの新作制作や、世界的な振付家・演出家による最新作の紹介に取り組むと同時に、若手ダンサーの育成も手がける。

主催公演として、5月には14回目の登場となる近藤良平が率いるユニークなダンスカンパニー「コンドルズ」による新作『Golden Slumbersーゴールデン・スランバー』を上演する。オリジナル映像や生演奏、人形劇などを取り入れ、ダンスの概念を広げた親しみやすい作品で、地域住民を中心に幅広い観客層のさらなる拡大を図る。

また、9月には1970年～80年にかけてピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団の主要メンバーであった振付家のメリル・タンカードによる伝説のダンサー オリガ・スペシフツェワの一生を描いた作品『TWO FEET』を日本初上演。ダンサーには元ポリショイ・バレエ団のスターダンサーで、現英国ロイヤル・バレエ団のプリンシパル ナタリア・オシポワを迎えることで、これまで当劇場での鑑賞のきっかけがあまりなかったバレエファンも足を運ぶ機会となることが期待される。さらに12月には、ダンサー、振付家、研究者など様々な顔を持つフランスのアーティスト フランソワ・シェニョーを招聘し、ヴァージニア・ウルフの小説『オーランドー』から着想を得たダンス、演劇、音楽、美術など多様な芸術表現を包括したパフォーマンス作品『不確かなロマンスーもう一人のオーランドー』を上演(2017年初演)。『TWO FEET』とともに世界的に活躍する振付家・ダンサーの作品にいち早く触れる貴重な機会を提供する。

そのほか、育成事業としては、平成30年度より立ち上げた「さいたまダンス・ラボラトリ」企画を引き続き実施。ネザーランド・ダンス・シアターの元ダンサーである湯浅永麻・小尻健太によるプロを目指す若手ダンサーや学生を対象とした一定の期間集中的に行うワークショップを実施。最終日に創作した作品を発表する公演を行い、「若手ダンサーの育成および創造活動」に取り組む。

また、平成26年度から実施しているプロの振付家、ダンサーによる、県内中学校の生徒を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」を引き続き実施する。ダンスを通じてのコミュニケーション能力育成を図る。

事業名	実施予定時期	会場
コンドルズ埼玉公演 2020 新作『Golden Slumbers-ゴールデン・スランパー』	5月	大ホール
ナタリア・オシポワ/メリル・タンカード『TWO FEET』	9月	大ホール
フランソワ・シェニョー『不確かなロマンス—もう一人のオーランドー』	12月	大ホール
さいたまダンス・ラボラトリ企画 (小尻健太・湯浅永麻によるWS)	3月	小ホール
MEET THE DANCE ~アーティストが学校にやってくる!	通年	県内中学校

(ウ) 音楽部門

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開することで、鑑賞者の更なる拡大につなげる。

世界最高級の演奏を鑑賞できる機会としては、11月に毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演を行うほか、ベテランピアニスト、イーヴォ・ポゴレリッチによるリサイタル公演（3月）、ルツェルン祝祭管弦楽団首席トランペット奏者、ラインホルト・フリードリッヒ擁する金管アンサンブル、ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット公演（3月）を実施する。バッハ・コレギウム・ジャパン公演に際しては関連レクチャー、管楽アンサンブル公演に際してはメンバーによる県内の高校生等を対象とした楽器クリニックを行う。本格的なクラシック音楽を埼玉の地で楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の存在をアピールする。

14年目を迎える、選りすぐりの若手ピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、かつて埼玉会館の家族向けオーケストラ公演にこどもソリストとして登場し、2019年にチャイコフスキー国際音楽コンクールで第2位入賞を果たした藤田真央、シリーズ初のフォルテピアノ奏者として、第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位入賞を果たし話題となった川口成彦、2018年浜松国際ピアノ・コンクールを制したトルコの新星ピアニスト、ジャン・チャクムル計3名のピアニストを迎える。若手アーティストの公演を継続的に実施することで、次の世代の発掘支援に貢献する。

また、世界中を舞台に画期的な活動を続ける弦楽四重奏団クロノス・クァルテットのドキュメンタリー映画を上映しながらライブ演奏を行う「ライブ・ドキュメンタリー—A Thousand Thoughts」を日本初演する。大ホールを活用して映像と生演奏という、これまでの音楽公演とは異なる形式の公演を開催することにより、新たな観客層の開拓を目指す。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用したオルガン事業（無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、「みんなのオルガン講座」、「大塚直哉レクチャー・コンサート（全2回）」）を継続するとともに、平日のお昼前の時間帯にさいたま市在住の音楽ジャーナリスト、林田直樹をナビゲーターに迎え、音楽の雑学的なお話と本格的な演奏を楽しめるシリーズを立ち上げる。多様な年代、ライフスタイルや価値観に応じて、音楽に接するための選択肢を用意することで、誰もが音楽を身近に感じられる環境を創り出せると期待する。

さらに、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施する。劇場に足を運ぶことが難しい環境にある学校などに直接音楽を届けることで、未来ある若い世代の育成につなげる。

5年目を迎える共催事業としては、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを8月に開催する。

事業名	実施予定時期	会場
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol. 39～Vol. 41)	5月～1月	音楽ホール
林田直樹ナビゲート「イレブン・クラシックス」	6月・1月	音楽ホール
大塚直哉レクチャー・コンサート	7月・2月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	7月	情報プラザ
クロノス・クアルテット「A Thousand Thoughts」	10月	大ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン ベートーヴェンプログラム（関連レクチャーも開催）	11月	音楽ホール
ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット（県内の高校生を対象とした楽器クリニック）	3月	音楽ホール
イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる！	通年	県内小・中学校
ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場【共催】	7月・8月	音楽ホール他

(エ) その他

彩の国落語大賞の授与など若手落語家の発掘・支援にも貢献してきた「彩の国さいたま寄席」（年4回）や、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」を実施する。

また、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の授業への講師派遣、大学生インターンシップを受け入れるなど、地域貢献とともに地域連携を深める。

さらに、障害者の劇場体験や芸術参加を支援するために必要とされる知識を共有し、方法論や改善策を議論するバリアフリー・セミナーを開催する。

事業名	実施予定時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
劇場体験ツアー	12月	大ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
バリアフリー・セミナー	未定	映像ホール
舞台技術講座	未定	大ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	未定	埼玉大学

イ 埼玉会館（6事業）

埼玉会館では、平日昼間のランチタイム・コンサートを定期的で開催し、親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供し、新たな鑑賞者層の開拓を図る。

また、大ホールの特性を活かしたオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団公演を3月に実施する。

事業名	実施予定時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート（第43回～第47回）	6月～3月	大ホール
NHK交響楽団	3月	大ホール

（2）埼玉の魅力を発信する文化プログラム

ア 障害者ダンスチーム「ハンドルズ」

県障害者福祉推進課との共催で制作・上演してきた「近藤良平プロデュース 障害者ダンスチーム ハンドルズ」について、2017～2019年度のハンドルズ県外公演で共演した金沢、静岡、千葉の障害者ダンスチームを招聘し、これまでの成果を結集・発展させた公演を行う。

イ 高齢者の舞台芸術参加促進プログラム

東京オリンピック・パラリンピックが開催される本年度には「オリンピック文化プログラム」関連事業として、『世界ゴールド祭2020』を県の委託事業として開催する。高齢者による芸術参加の新たな試みとして評価の高い大群集劇である「ゴールド・アーツ・クラブ」について、昨年度のワークショップの成果を踏まえた第2回公演を高齢者の舞台芸術参加促進プログラムとして実施する。このほか、海外からイギリス、イスラエルの2ヶ国、国内から沖縄、京都、神奈川、群馬の4団体の高齢者カンパニーを招聘し、公演や関連ワークショップを行う。また、シンポジウムやアメリカのダンスグループが開発したパーキンソン病患者によるダンス公演、60歳以上の人々による舞台発表イベント、多世代が交流するファッションショーなどの県民参加プログラムなどを行い、

『世界ゴールド祭 2018』の実績を発展的に展開する。

これにより、高齢者の舞台芸術表現の可能性を提示し、高齢社会の課題に対して、公共劇場に期待される社会包摂的機能や高齢者アートの持つ可能性について国内外に発信する。

(3) 企画展示・広報等

ア 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催する。

イ 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団の会員「メンバーズ」の拡大とチケットの販売促進に効果を上げるため、財団の主催する公演や活動内容を紹介する情報誌を発行する。

(ア) 発行回数、部数 年6回 各 12,000 部発行

(イ) 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、
県内文化施設など

ウ メンバーズ事業

主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行うことにより、顧客の定着化と拡大、チケットの販売促進を図る。

会員数 4,671 人 (令和2年2月末現在)

エ サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図る。

サポーター会員数 120 社(者) (令和2年2月末現在)

(4) 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開する。

2 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館について、各施設の持つ機能を効果的に活用して施設貸与を実施する。

(1) 彩の国さいたま芸術劇場

施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者サービスの向上に努めるほか、施設の空き情報の提供などを行い、利用率の向上に努める。

また、ホームページを活用し、わかりやすく充実した利用案内や施設利用情報の提供、公演チラシ掲載による貸館公演の広報支援など、サービスの充実を図る。

(2) 埼玉会館

施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室等が十分に活用されるよう利用者サービスの向上に努める。また、施設の活性化と利用促進のために大型催事の誘致を行うほか、施設の空き情報の提供、SNSによる情報発信等を行い、利用率の向上に努める。

また、ホームページを活用し、わかりやすく充実した利用案内や施設利用情報の提供、貸館公演の広報支援など、サービスの充実を図る。

3 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するために、次の付帯事業を実施する。

(1) 各種の活動及び発表の場の提供

埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行う。

(2) 駐車場及びレストランの運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において有料駐車場を運営する。

また、各施設内のレストランを運営することで、利用者へのサービス向上や賑わい創出を図る。埼玉会館では、レストラン事業者と連携し、会館施設を有効活用したパーティーやウェディング等の利用者サービス拡大を図る。

(3) その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において自動販売機及びタクシー電話を設置する。また、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等を受け入れる。

(4) 埼玉会館のブランディング事業

全国に誇れる価値をもつ「埼玉会館の歴史と建築」を発信するため、ブランディング事業を行う。前川國男氏が設計したモダニズム建築（「前川建築」）である埼玉会館の多彩な魅力、特徴を様々な角度から知ってもらうことで、ブランド

化による更なるイメージと認知度のアップを図る。

(5) 賑わい創出と活性化のための共催・連携事業

埼玉会館では、高い芸術性や話題性のある事業を共催し、埼玉会館を拠点とした活動や発信の場を広げる。また、地域社会との連携により、町内会のお祭りへの協力、商店会と合同での「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行う。さらに、国や県が推進する啓発事業等と関連したライトアップの取組にも積極的に協力していく。

新たに管理対象となる隣接広場（旧浦和図書館跡地）については、会館施設と連続した空間と位置づけ、適切な維持管理とともに、エスプラナード（建物内広場）を含めた賑わい創出のための活用方法を検討する。

(6) 劇場広報事業

彩の国さいたま芸術劇場では、舞台芸術や劇場への関心を高めてもらうとともに、施設利用の促進を図るため、劇場見学ツアーを実施する。